

させぼ夢大学

発行 ● させぼ夢大学広報委員会
事務局 / 〒857-0863
長崎県佐世保市三浦町4-30・松蔵ビル3F
TEL.0956-25-9555
FAX.0956-25-9545
http://www.yumedai.com/
E-mail:sasebo_yumedai@yahoo.co.jp

お尋ねテレホン 25-9556

夢のつづき

させぼ夢大学会報

No.182 <2010・4>

平成22年度
第1回

2010年 **4月15日(木)**

アルカスSASEBO 大ホール

●開 場 午後 5:30
●開 講 式 午後 6:00
●講 演 午後 6:30

政治・経済・外交・環境等々、どれ一つとってみても先行き不透明な時代を迎え、周囲の人々の顔から「笑み」が見られなくなりつつある昨今にあって、今回は非常にタイムリーな講師をお迎えします。

橋本五郎氏は、慶応義塾大学法学部政治学科を卒業後、読売新聞社に入社し、社会部、政治部、政治部次長、論説委員、政治部長、編集局次長、編集委員を歴任して、現在は特別編集委員の重責を務めておられます。また、日本テレビ系「ズームイン!!SUPER」のニュース解説をはじめ、各種報道番組のコメンテーターとして出演されるなど、テレビ画面を通じても



的確にポイントをおさえて私たちに親しく、分かりやすく政治・政局の解説をしてくださっています。

長年に亘り国内外の政界の舞台裏を取材した経験から、日頃垣間見ることのできない、内側から見た日本の政治・経済の見通し等について鋭く分析される橋本氏。例のきびきびした動きと歯切れよい口調で、第19期をスタートするさせぼ夢大学の演台を熱いものにしてくれることでしょう。胸中に不安と不満ばかり溜め込むことなく、日本の現状を直視して今後に向けての覚悟・決意を新たにすよい機会となりそうです。

はしもと ごろう
読売新聞特別編集委員 ● 橋本 五郎氏

テーマ・**どうなる日本! ~政治・経済ここがポイント~**



次回のご案内

- と き / 5月20日(木)
- 講 師 / 漫才師 みやがわ はなこ 宮川 花子氏
- テーマ / 花子流いきいきライフ

●大阪府出身。大阪府警婦人警官を経て、漫才の「チャンバラトリオ」に弟子入り。54年夫婦漫才「大助・花子」として再デビューを果たす。大助の書いたネタに、花子のしゃべくりと大助のボケがかみ合って人気を得る。62年上方漫才の頂点である上方漫才大賞を受賞し、お笑い界のスターの座を確立。平成2年には同大賞とお笑い大賞を同時受賞。花子は胃の手術、大助は胆石の手術などのトラブルを乗り越え、吉本興業の寄席ではトリを務める人気コンビ。昨年、コンビ結成30周年を迎えた。

橋本五郎 氏のプロフィール

●昭和21年秋田県生まれ。45年慶応義塾大学法学部政治学科卒業後、読売新聞社に入社し浜松支局に配属される。50年本社社会部、51年から政治部に配属されて以来、政治記者として長年に亘り取材してきた観点から、日本の政治・経済を鋭く分析する。論説委員、政治部長、編集局次長等の要職を重ね、現在は読売新聞特別編集委員。日本テレビ系「ズームイン!! SUPER」毎週月・火曜日出演中。





宮川泰夫氏



させば夢大学講演会
であいふれあいひびきあいーのと自慢12年のたひからー 講師/宮川泰夫氏

ともに学んで、明日に生きる 「させば夢大学」へようこそ

心の栄養歌にあり

西彼町 瀬戸崎 齊

「のど自慢」といえばテレビやラジオを通してよく視聴する番組の一つであるが、65年も続いているという、長寿番組たる所以はどこにあるのだろうか。人を引き付けるものはなんだろうか、時に自問自答することがある。それは、この番組には、老いも若きも国籍も問わずいろんな人が登場する。加えて開催地周辺とその地域特有の人々の生き様を、人生ドラマを写し出してくれるからだと思う。

人間だれしも歌いたくなる時がある。思わず口ずさむ時だけである。人はなぜ歌うのか、作家五木寛之さんの話を引用されていたが、歌が心の栄養になるからであろう。出場者は、鐘が幾つ鳴るか問題でないのである。大勢の前でマイクに向かってみたいのである。「のど自慢」が放送されるまでには、多くの方々が携わっておられることを始め、番組づくりで苦心されたこと、それらにまつわる著名人のエピソードなども興味深く拝聴することができた。

今回は、21年度の最後を飾るに相応しい講演であった。参加してよかった。夢大学の一員で

よかったということを実感した一日だった。いつまでも心に残るものになりそうである。

放送の番組作りに限らず、何らかのイベントを行おうとするとき、多くの労力とそれ相応の経費を必要とするものです。夢大学の開催に当たっても多くの方々の英知と労力が注ぎ込まれているものと思います。いつもご苦勞戴いております。理事長さんを始めとする、関係の皆様にご敬意を表すると共に厚くお礼申し上げます。

心の栄養で馳走様

南風崎町 横山 春美

私は「NHKのど自慢」が好きで、殆ど毎回視ている。出場者は全国津々浦々の老若男女で、それぞれの地域の、いろいろな世代の人情味が垣間見えて、大変興味深い。その司会をされていた宮川さんの講演を楽しみにしていたが、いつものテーマ音楽に乗って登場され、期待にたがわず舞台裏のエピソード、体験などをユーモラスに話され、楽しいひと時を過ごすことができた。初任地が長崎ということから親近感もわく中で、見るから

に人間味あふれる宮川さんの、12年間、600回、15万人に及ぶ人々との出会い、ふれあいの話は心を打たれた。のど自慢の懐かしい歴史をひもといたり、おまけに自らの歌も披露するというサーブिसぶりには観客席から拍手喝采。会場はますます和んでいった。

毎回、木曜日の準備から始まり、金曜日の位置決め等、土曜日の予選、そして日曜日の本番というスケジュールで、多忙を極めながら、一度も休んだことがないとは凄いことだ。体調管理など努力されていることだろうと思う。心からご苦勞様でしたとねがりたい。予選出場の競争率の高さに驚いたが、いつも感心するのが、ピタッと時間に終わらせる見事な司会ぶりだ。

北島三郎さんの下積み時代の「辛抱と出会い」の話や、島倉千代子さんの「少女時代のコンクール出場」、「個性の見極めの難しさ」の話など。また、対談で「人はなぜ歌うのか」との宮川さんの問いに対して、五木寛之さんが「歌は心の栄養」と答えたエピソードには感銘。

最後に、「地域が心の栄養を育てる」という言葉で締めくくられた。

全国津々浦々の味がある。 のど自慢の「歌は心の栄養」



■70歳前後の友人3、4人で、毎週1回唄いに行っています。皆まだ仕事をしているので夜ですが、元気で若々しいと言われている仲間です。宮川さんの話を聞いて心の栄養と唄を聞いて頭も活性化されていますと納得しました。唄っていいのです！カオルバーチャンを目指して頑張れる目標が出来、「いい話を聞いた」と皆に伝えるの楽しみに帰路につきました。時々皆に報告できる話の収穫があるので、夢大学大好きです。
瀬戸越2丁目●吉福 笑子

■夢のひろばは、平戸神楽で舞台上に神前をあしらい、神々しい雰囲気の中での「二弓の舞」は、烏帽子、揃いの宮人姿で笛・太鼓の囃子、仮神前にて武人姿の二人の舞人。500年も前から古式ゆかしい平戸神楽の舞い、見事でした。今後益々の継続を望みます。
松川町●杉山 源次郎

■平戸神楽を初めて拝見しました。趣のある舞いと笛でした。「宮川さんの旅ぐらし」と舞台裏スタッフの話に加えて、人々の生活感が伝わり感動しました。「心の栄養」を得るため人は唄うとの言葉も感じ入りました。
春日町●有吉 成子

■いつも聴かせて頂き、うれしく思います。次回に来るのが楽しみです。皆様のおかげです。有りがとうございます。
三川内町●棕尾 勝征

■宮川泰夫講師の長期に亘る「のど自慢」の司会。実施するまでの前準備が如何に大変であったか、初めて知った。本人の忍耐、寛容心には頭が下がった。
峰坂町●本山 正喜

■平戸神楽「二弓の舞」、とてもおごそかな気持ちになりました。無形文化財に指定され、保存・伝承していくのはとても大変な事だと思いましたが、いつまでも残していただきたいとつくづく思いました。

宮川泰夫氏の講演、とても興味深く拝聴しました。さすが元NHKアナ、キチッと時間通りに終わられ、さわやかな気持ちで会場を出ることが出来ました。
八の久保町●小川 恵美子

■歌うことで心に栄養を与え、喜びの顔に接する事で脳の活性化になるという良いお話でした。これからの人生、人様に喜びを与えられるように生活をし、脳の活性化を自分でも心がけようと思います。
八幡町●荒木 篤子

■NHKののど自慢を12年間担当された、元司会者の宮川泰夫さんの準備のための裏話、20名までに絞る過程での「であい、ふれあい」のお話は非常に貴重なものでした。
椎木町●池田 正和

■元NHKのアナウンサー数多しと言えども、彼ほど、今もって人々に感動を与える人はいないのではないと思わせるほどの迫力と、「心の栄養」の話があって暫し時を忘れた。
田原町●藤井 文夫

■世界を伝えるニュースキャスターから、嫌々だった「のど自慢」司会者への宮川泰夫さん。12年間600回一度も休まず、人とのふれあいから、外国・日本各地・地域から「心の栄養」と幸せをもらい感謝された。私も納得しました。
桜木町●原 敏朗

平成21年度を受講を終えて

光月町 国松 仁志

毎年、そして毎回テレビ等でよくお目にかかる著名人や、音楽や落語などの芸術家、スポーツ界に秀でた功績を残した人々などの幅広い分野の講師陣から、講話、話術というより話芸に近い（不謹慎でした、大学などの講義ですよ）、わくわくどきどきの楽しく、また、夢大学生として、これからの人生のためになり、かつ心の滋養になるような話を、いつも喜びと充実感を感じながら3階席から拝聴しています。ボランティアとしてお世話していただいているスタッ

フの皆様方のご苦勞を慮りながら、「夢のつづき」への今年度最後のつたない投稿を自作自演の「下手の横好き川柳」で締めくくります。

○褒められる 受講態度も

○夢もらい 心晴れやか

○うま過ぎる 話術というより

○会場が 破顔一笑 沸き返る

○元取って お釣りも出てくる

○よく生きる 夢大学で

○学びます

○お粗末さまでした。

○雲の域

○昇路につく

○優等生

○長崎とは。結婚も子供さんが生まれたのも長崎で、長崎と聞く胸がキューンとなる嬉し

いことですね。

○世界から世間へ

○少しふくらされ、人なつこい

○お顔を久し振りに拝見しました。

○入局されて初めての赴任先が

○長崎とは。結婚も子供さんが

○生まれたのも長崎で、長崎と聞

○く胸がキューンとなる嬉し

○いことですね。

○世界から世間へ

○少しふくらされ、人なつこい

○お顔を久し振りに拝見しました。

○入局されて初めての赴任先が

○長崎とは。結婚も子供さんが

○生まれたのも長崎で、長崎と聞

○く胸がキューンとなる嬉し

○いことですね。

○世界から世間へ

○少しふくらされ、人なつこい

○お顔を久し振りに拝見しました。

○入局されて初めての赴任先が

○長崎とは。結婚も子供さんが

○生まれたのも長崎で、長崎と聞

○く胸がキューンとなる嬉し

○いことですね。

講演を聴かれた感想をお待ちしています！

※締め切りは講演日の1週間後（必着）
※宛先は、させほ夢大学事務局まで

世界から世間へ

日守町 山口 君代

少しふくらされ、人なつこいお顔を久し振りに拝見しました。

入局されて初めての赴任先が

長崎とは。結婚も子供さんが

生まれたのも長崎で、長崎と聞

く胸がキューンとなる嬉し

いことですね。

世界から世間へ

少しふくらされ、人なつこい

お顔を久し振りに拝見しました。

入局されて初めての赴任先が

長崎とは。結婚も子供さんが

生まれたのも長崎で、長崎と聞

く胸がキューンとなる嬉し

いことですね。

世界から世間へ

のど自慢の企業秘密

京坪町 大郎浦 幸子

慣れ親しんだ「NHKののど自慢」のテーマミュージックが始まり、フロアの手拍子の鳴りやまぬところに素晴らしい声と笑顔でのご登壇。さすが元NHKエグゼクティブアナウンサーのお話はよどみなく、90分はとて

した体験話をさすがの話術で聞き入ってしまいました。この頃「のど自慢」を見ながら感動して涙が流れることが多くなりまして。これは年を取ったこともあるが、心の栄養となっているのではと思うと少し安心しました。今年度最後の講義ありがとうございました。



も短く感じられた。超長寿番組となった「のど自慢」が「マイクを民衆に解放する番組」として登場したこと、マイクの前では誰もが平等であることと聞き、放送開始当時に思いをはせた。企業秘密だとか仰りながら順番の決め方、鐘候補をどの順に置いて盛り上げるか、ゲスト歌手の格付け、現地に赴いて初めてのスタッフと打ち合わせの事など、ユーモラスなお話は裏話として聞いていて楽しく、テレビ放映場面を頭に描きながら過ごした。

「のど自慢」は歌手の登竜門ともなり、北島三郎、島倉千代子両氏について運命的な出会いを取り上げてのお話は、初めて知り得たことで興味深かった。何れともあれ毎週金土日を「のど自慢」のために潰し、1年のうち165日を出張にとられる12年間を、1回も休むことなく全うされたことには敬服の至りである。



平戸神楽 笛の会（二弓の舞）

ふるさと紀行 九十九島の 民話

1

「九十九島」「枕島」

佐世保工業高等専門学校
澤田 彰

日本一と言われています。

「北九十九島」は岩肌が厳しく男性的な島が多く見られ、「南九十九島」は優美で女性的な島々が多いと言われています。

昔九十九島は100ありましたが、それが夜、皆で佐世保の街へお酒をのみに行きました。ところが一つの島だけ飲み過ぎて、酔いつぶれて帰らなかったのが九十九島になったと言っています。

停泊されました。たまたま暴風があつて軍船ごとごとく難破寸前の憂き目にあつたが、幸い近くにいた土蜘蛛族の助けを受けて事なきを得ました。皇后は喜んでここを救いの郷と名付けられたのです。

これは、肥前風土記の一節で、救いの郷は、今の佐世保港内にある巢喰浦らしいと唱える人もあります。

こんな事からだろうか、土地では「この時、皇后が船中で愛用していた木枕が海中に投げ出され、流れ流れてここ九十九島に届いた。これがこの枕島だ」という伝説をつくりあげたのである。

それにしても「神功皇后の木枕」とは、昔の人もよく考えたものです。

■九十九島

西海国立公園の中心ともいふべき九十九島は、戦争中海軍の秘密を守るために一般人には存在がはっきり知らされていませんでした。また、佐世保観光名所の一つの弓張岳山頂から九十九島の写真を撮ることは禁止されていました。市民が九十九島を山頂から自由に見物できるようにしたのが戦後のことです。

九十九島は、小佐々、鹿町町、田平町の海域を「北九十九島」と、佐世保の沖合の「南九十九島」で、南北合わせて170の島があり、南が85、北が85あるといわれていますが、2001年に市民ボランティアによる調査の結果、九十九島は208の島（北128、南80）があると確認されました。また島の密度は

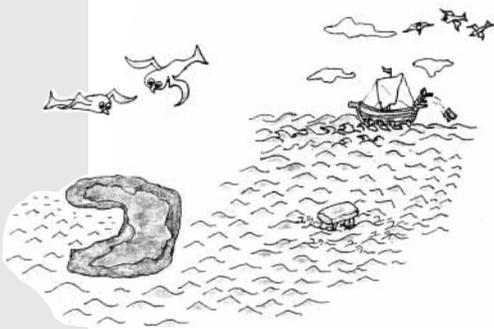
■九十九島に流れていた木枕に似ている「枕島」

— 神功皇后で愛用の木枕伝説 —

むかし、神功皇后が土蜘蛛族の人たちに、神功皇后が愛用していた木枕を捨てなければいけないと言われました。でも神功皇后はずーと愛用していた木枕を捨てることは出来なくて、仕方なくお捨てになりました。この木枕は、流れ流れて九十九島に着き、いつの間にかこの島が枕に似てきたと言っています。

またこんな話もあります。

九十九島の中に枕島と呼ばれている島があります。神功皇后が三韓征伐をされたとき、軍需品を求めてしばらくのあいだ、須賀の郷の東北の浦に



平成22年度(第19期) 講演会予定

平成22年

4月15日(木)

開講式 橋本 五郎氏

●どうなる日本! ~政治・経済ここがポイント~

5月20日(木)

宮川 花子氏

●花子流いきいきライフ

6月17日(木)

松本 幸四郎氏

●60歳からの夢

7月22日(木)

由美 かおる氏 (交渉中)

●心とからだの健康 ~西野流呼吸法~

9月11日(土)

開演予定14:30

櫻井 よしこ氏

●いま日本でなにか起きているか

10月21日(木)

由紀 さおり氏

●美しい日本語の歌を伝えたい

11月18日(木)

中原 英臣氏

●医者しか知らない危険な話

12月16日(木)

鍛山 矩幸氏 (元 関脇寺尾)

●私の相撲人生

平成23年

1月20日(木)

加来 耕三氏

●歴史から学ぶ知恵

2月17日(木)

倍賞 千恵子氏

●歌うこと、演じること、そして生きること



●平成22年度19期がスタート!

ハガキが届くなど、事務局は皆様の関心の高さに驚かされた毎日でした。

●お守りください!

品格一番の夢大学を!!

- ① 席取りは禁止です。(家族・友人とは一緒にご入場を!)
- ② 講演・演奏中のおしゃべりはがまん! がまん! (周りの人は気が散ります)
- ③ ビデオ及び写真撮影・録音はできません。(著作権の関係があります)
- ④ 携帯電話は電源を切るか、マナーモードにしてください。
- ⑤ ホール内での飲食はできません。